特集　子どもたちの居場所を守る学童クラブ

コロナ禍での新たな挑戦

新型コロナウイルスが猛威を振るう最中、国は2月27日、学校の休校要請を発表。「日中の子どもの居場所や仕事はどうしよう」と困惑した保護者も多かったと思います。併せて同日、「原則、放課後学童クラブは開所」という通達がありました。子どもが朝から1日過ごす場所になった学童クラブでは何が起こっていたのか、沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブに密着しました。

「ただいま」から「おはよう」へ

3月1日午前7時45分、「おはよう」と元気な声が響き渡る沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブ。普段は午後3時頃に下校し「ただいま」と帰宅するかのようなあいさつでやってきますが、この日を機に朝から1日過ごす場所になりました。

学校の休校発表が木曜日で、休校開始と学童クラブの1日開所が翌週月曜日。急な決定で落ち着いて準備する時間もなく、誰もが経験したことのない事態に戸惑いました。一方、「子どもを守ろう」「誰もが大変なんだ」という思いが強くなり、不安と覚悟の狭間に気持ちが揺れ動きながらも、子どもの居場所を確保しようと受け入れを決めました。

両学童クラブは沼田東小学校の敷地内に並んで位置し、同校の子どもが利用しています。2004年に沼田東学童クラブが開設。利用者増加に伴い2009年、沼田東第2学童クラブが設置され、移転を経て、2017年に現在の場所で活動しています。各学童クラブには全学年約40人が在籍しています。

学童クラブの役割は保護者の就業を支援し、子どもの命を守り心に寄り添うこと。感染防止対策を徹底し、子どもが長い1日を安心して過ごせるように、不安になっていないかと心の声に耳を傾けながら1日1日を必死に乗り越えました。

3月27日、休校期間が終わり、春休み終了後の4月7日に学校が再開。保護者の人数を制限するなど縮小しながらも、新1年生は無事に入学式を迎えられ、ほっとしたのもつかの間。4月7日の国の緊急事態宣言を受け、県は学校を再び休校にするという発表をしました。

4月13日、学童クラブの開所は再び朝からとなり、6月中旬まで続きました。3月の受け入れ時と同様な対応を取り、毎日できることを必死に続けました。地域の団体から消毒液やマスクの寄付など多くの人の支援もたくさん受けました。

長く続いた休校の間、毎日の奮闘で感染者はゼロ。大きく体調を崩す子どもも出ませんでした。新型コロナウイルスを共有したからこそ、支援員も子どもも共に学べたことがあり、成長できたということでした。